飛 驒 通 信

岐阜県立飛驒高山高等学校
通信制課程
〒506-0052
岐阜県高山市下岡本町 2000 番地 30
TEL&FAX 0577-32-6013

令和3年5月発行
第190号（通算855号）

１年生

ＬＨＲ（クラス役員決め、学校行事の説明）

生物基礎（顕微鏡の使い方）

２年生

数学Ⅰ②（三角比）

３年生

書道（小筆の使い方、名前書き）

新年度の抱負

みなさんの抱負には、これまでの自分を振り返って「こんな自分になりたい」という強い気持ちが感じられました。新しい一歩を踏み出す今の気持ちを大切にしてください。その一部を紹介します。

諦めずに最後までやりきることです。
通信制では、レポートを一人で進めていかなければなりません。きっと自分だけではできない問題も出てくると思います。そこで、できないからと放っておくのではなく、誰かに聞いたりして最後までやりきりたいです。
勉強だけに限らず、行事、これからやりたいと思っているアルバイトでも諦めずに最後までやりきることを大切にしていきたいです。

最後までやりきるためには、時には誰かに協力してもらうことも大切です。
「やりきる」ために、自分に合う方法は何かを考えてみよう！

「勉強と趣味の両立」です。通信制は、自分の時間が増えることになり、好きなことをたくさんしたくなると思います。でも、そんな自分に負けず、しっかりと勉強していきたいと思います。
だからといって根を詰めるのではなく、好きなことも楽しんで生活したいです。

勉強と趣味の両立‥‥通信制ではそんな時間の使い方もできます。だからこそ自分が一日の生活をどのように送っているのかを確認することが大切です。

今年度は、どんな時も自分らしくいられるようになりたいです。私は自分が周りからどのように思われているのかをすごく気にしてしまいます。嫌われたり、変わった人だと思われてしまうのが怖いです。だから、私が本当にやりたい事ができなかった経験が何度もあります。
しかし、ある本に『自由とは他者から嫌われる事である』と書かれていました。
嫌われても良いから、ありのままの自分でいる方がずっと楽だなと思いました。しかし、理屈では理解できましたが、実際はやはり周りを気にしてしまいます。
今年度は嫌われても良いから、自分のやりたい事を思いきってやりたいと思います。
強い気持ちを持って頑張りたいと思います。

「ありのままの自分」素敵ですね。スポーツ選手もそうですが、思いきって取り組む姿は、周りの人を惹きつける力があります。

一つ目は、勉強に向き合う時間を増やすことです。今までは、趣味や自分のやりたいことに時間を多く使ってしまっていたけれど、レポートを含め勉強に取り組むことを最優先にして、必ず卒業できるようにしたいです。
二つ目は、自分の進路を明確にすることです。今年こそは自分がどんな職業に就きたいのか、どんな人になりたいのかを決められるようにしたいです。

状況に応じて自身と向き合う場面は、大人になるにつれ増えていきます。今のうちから向き合う経験を積み重ね、進路決定だけでなく、その先のキャリアアップにつなげよう。

令和３年　５月３０日　　飛 驒 通 信　５月号

球技大会（５月１６日）

優　勝　４Ａ－１

準優勝　４Ａ－２

クラスの人とコミュニケーションをとるいい機会になった

話したことがない人と話すことができた

チームのメンバーと声をかけ合えた

自分から積極的にボールを取りに行けた

みんな協力して楽しくプレイできた

たくさんの応援や拍手があった

クラスの輪が深まった

みんな楽しそうだった
自分も楽しかった

生徒会活動

令和３年度　生徒会スローガン

誠心誠意～共に前進～

全員が一丸となって、心をこめて最後までやりきります！

令和３年　５月３０日　　飛 驒 通 信　５月号

令和３年度の生徒会年間行事計画		
４月	２５日	生徒議会
５月	１６日	球技大会
６月	３・４日 ６日	乗鞍宿泊研修（中止） 生活体験発表会
９月	２６日	文化祭（予定）
10月	２４日	東海四県通信制高等学校交歓会（予定） 浜松市（静岡中央高等学校通信制）
１月	１６日	生徒会長選挙
３月	６日	生徒会認証式・卒業生歓送会（卒業式当日） 生徒会機関誌「あかね」発行

※専門委員会は必要に応じて開催

職員室より

＜個別Ｓ、追・再・特別テスト受験の注意点＞

〇スクーリング（日曜Ｓ、水特別Ｓ、３修Ｓ）のある日は受けられません

『学習の手引き』19 ページを確認してください。

学習カレンダー

Ｓ＝スクーリング　特Ｓ＝水曜特別スクーリング
3修Ｓ＝3修生スクーリング

日	曜	６月行事予定
1	火	
2	水	特Ｓ
3	木	
4	金	
5	土	休業日
6	日	生活体験発表会・いのちを守る訓練
7	月	休業日
8	火	夜間学習会（地公・数学・保体・英語）
9	水	特Ｓ
10	木	**前半・3修締切　16：30まで**
11	金	
12	土	休業日
13	日	休業日
14	月	
15	火	少人数コミュニケーション講座②
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	休業日
20	日	ST⑧　総合
21	月	休業日
22	火	
23	水	特Ｓ
24	木	3修T⑤　**後半締切　16：30まで**
25	金	
26	土	休業日
27	日	休業日
28	月	
29	火	レポート作成日
30	水	

二十代前半の頃、バックパックを背負って一人でインドを放浪した話をすると「『深夜特急』に影響されたの？」と聞かれたが、全く読んだことがなかった。先日、沢木耕太郎のエッセイ集を読んだ。そこには彼の旅に対する想いや考えが綴られていて「これは私のことなのでは？」と思ってしまうほどだった。

「おいしいものを食べようという意識はほとんどなく、（中略）おなかを満たすことが最も大事なことだった。」

旅に出ると好奇心がそそられることが多い。そうなると、睡眠や食事が削られることになる。夜行列車や夜行バスは旅の必須アイテムだ。ガイドブックで紹介されるお店をわざわざ探して訪れるという手間をかけるはずもない。お腹が空いたときに、たまたま通りかかった食堂に入って現地の人が食べているものを注文する。今まで訪れた国で、どんな肉でも魚でも食べられなかったことはなく、食べればすべておいしく感じられた。

「わからない中で、自分の力を全開にして立ち向かうところに面白さがあるのだ。放たれた素のままの自分を、ぎりぎりまで何の助けも借りないで動かしてみたい。」

旅にスマホはおろか、ガイドブックも地図も必要ない。目的地も必要ないかもしれない。ある街に降り立ち人の流れがある方へ進む。混沌としたバザールから入り組んだ路地裏へ、人いきれでむせかえる中を進む。時折振り返って、来た道の反対方向からの風景を目に焼き付ける、自分の位置を見失わないように。五感全部（場所によっては第六感も）で街を感じるのだ。

私は、何が起こるか分からない貧乏旅こそが旅の醍醐味だと思ってきた。近年その旅があまり楽しくない。旅には適齢期があるという。歳をとって体力がないのはもちろんなのだが、若い頃の、お金も経験もないが勢いだけはある無謀な旅と、いつでも出せるお金と情報と安全に守られたエセ貧乏旅とでは、味わえる感動は全く違うのだ。

「おばさんになった私にはもう旅はできないのかもしれない・・・」そう思うととても切ない気持ちになる。（石地　記）